

國學院大學学術情報リポジトリ

博物館における日本刀の“写し”に関する研究： その位置づけ及び意義について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上田, 理華, Ueda, Rika メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2533

論 文 要 旨

学籍番号	203328	氏 名	上田 理華
論 文 題 目： 博物館における日本刀の“写し”に関する研究 —その位置づけ及び意義について—			
(内容の要旨) 本研究では、文献や博物館における展示事例の調査により、日本刀の写しについて、その意義や位置づけの検討を行うことを目的とする。 第一に、博物館資料には一次資料と二次資料が存在する。一次資料・二次資料に優劣はなく、両者の特性を重ね合わせることでより大きな価値を発揮していると言える。 このうちレプリカや模造は、博物館における展示と保存の間隙を埋める他、研究や教育的効果が期待出来る一方で、レプリカ表示が鑑賞者の観察心の低下を引き起こすと指摘される。この点に関して筆者は、先行研究を踏まえつつ、レプリカと表示した上で、当該資料近辺への解説シート等の設置を一案として挙げた。 写しとは、元となる資料を模して制作された資料を指し、贋作とは異なる。 日本刀における写しの作刀の理由として、①時代の風姿を表すもの。②人気のもの、需要のあるものを制作するため。③注文によるもの。④復古思想によるもの。⑤本歌が極めて優れた作品であるため。⑥自分の技術を磨き、作品へと昇華させるために挙げられる。これらの事由は相互に作用するものと考えられる。 写しの位置づけについて、「写し」および「本歌」が同時に展示されている例が見られた。これは「本歌との比較を前提にした展示」あるいは「刀工自身の作品としての展示」によるものと考えられる。 他方で、展示表記に関して「写し」「再現」「復元」「復元模造」と異なるものが見られた。その定義も統一されているとは言い難く、情報が整理されていないことが看守される。また、表記によりどのような資料か判断することは難しく、鑑賞者に混乱を招きかねない。したがって筆者は、展示においては従来のとおり「写し」の表記を行い、展示解説等でその精度や原資料の情報を示す方法を一案として挙げた。 写しの意義について、①作刀技術の向上および継承。②復元。③展示が難しい文化財、同時期における複数個所での展示。④保存の4点が考えられる。 したがって写しの位置づけや意義は、同一作品であっても展示の目的によって変化し、一次資料・二次資料の両面を持つと言える。これは、写しが必ずしも忠実な再現とは限らないこと、写しそれ自体に習作といった側面があることが挙げられる。或いは忠実な写しであっても、それ自体が作者の技量を示しており、技術の継承という点に重点が置かれるものと看取される。これらは写しに確とした作者が示されているためであると考えられる。(999字)			

キーワード (5 語)

日本刀 写し 一次資料 二次資料 レプリカ